港北区災害ボランティア連絡会ニュース

事務局　〒222-0032　横浜市港北区大豆戸 13-1 吉田ビル 206 港北区社会福祉協議会

TEL 045-547-2324　FAX045-531-9561　　８２号

HP http://kohoku-saibora.jimdo.com　FB 港北区災害ボランティア連絡会　　2019 年 12 月

＊入会は随時受け付けています。あなたの町の防災度を高めるためにお力を貸してください

台風 19 号、区内各地で避難所開設

台風１９号は区内でも任意避難所の港北公会堂や地区センターなどと、指定避難所の大豆戸小学校など１７ヶ所の避難所を開設させる結果をもたらしました。工事中だった日吉地区センターでは１２日昼前にいっぱいになったということです。

地震と水害での開設方法の違い

開設準備も地震では地域防災拠点運営委員会が行いますが、水害では区の職員が開設する事になります。小学校を中心に指定避難所は耐震補強工事がなされていますが、水害時には浸水の可能性のある避難所も有ります。しかし水害想定の避難所運営訓練がされないため、地域の人は、とにかく避難所へ、と行動する事になります。

ハザードマップを事前に見よう

水害被害にあった方が一様に口にする言葉は「まさかここまで来るとは思わなかった」です。

それを防ぐ方法は二つ。ハザードマップで自宅環境を確認すること、そして適切な避難行動をとることです。そのための訓練を考える必要があります。

避難所に入れない

都内でホームレスの人が避難所利用を断られ、一晩雨の中にいた事例が報道されました。その他にも、避難所に入りきれないため移動せざるをえなかった、昼前から満員になった、など、定員制ではない避難所の難しさが浮き彫りになりました。もっと現実に即した避難所運営訓練のプランと、水害など災害の発生が予測できる場合に、適切な逃げ時を考える訓練ツールである「タイムライン」の活用が求められています。

（宇田川）

港北区が開発した防災アプリ。災害時には一番上の枠に重要情報が流れるが、まだ使い勝手や情報量で課題が見える

避難所運営の力強い味方になる本

購入方法

〒461-0001 名古屋市東区泉 1-13-34　名建協 2 階　認定 NPO 法人レスキューストックヤード事務局　　電話：052-253-7550　　1 冊 1,000 円

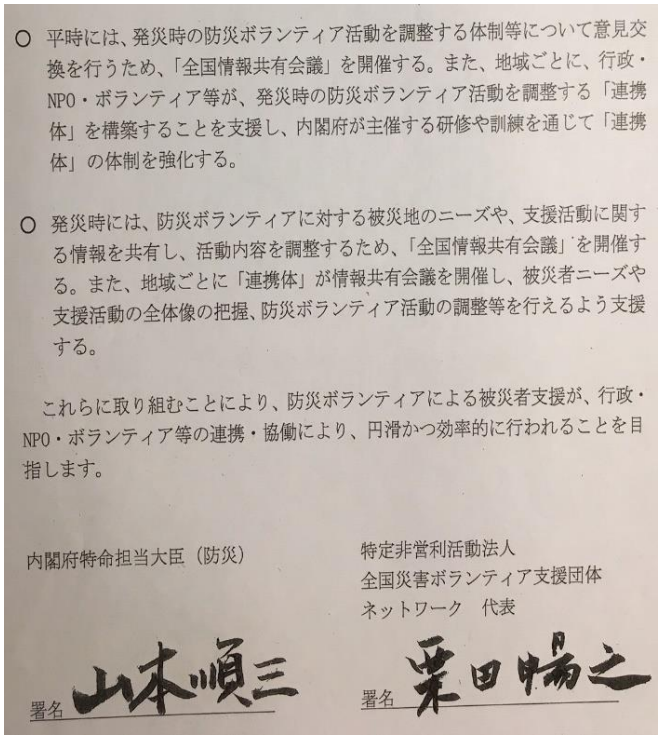
災害時の連携を
国とボランティアで確認

災害が起きた時にどのような分野でも必要なことは情報共有です。それが支援の「もれ、おち、ぬけ」を起こさないことになるからです。そのような仕組みは JVOAD（全国災害ボランティア支援団体ネットワーク）ができてからより確実に作られるようになりました。

被災地に入ったボランティア団体と現地社協、行政が顔を揃える会議は珍しくなくなりつつ有ります。それの裏付けが今年５月に国との間で交わされた文書です。「行政・NPO・ボランティア等の三者連携・協働タイアップ宣言」と題された文書では

・平時には、発災時の防災ボランティア活動を調整する体制等について意見交換を行う。また地域ごとに行政・NPO・ボランティア等が「連携体」を構築することを支援する。

・発災時には地域の連携体で情報共有会議を開催する。となっています。これらを実行するためにはボランティア側の力も求められています。　（宇田川）



○ 平時には、発災時の防災ボランティア活動を調整する体制等について意見交換を行うため、「全国情報共有会議」を開催する。また、地域ごとに、行政・NPO・ボランティア等が、発災時の防災ボランティア活動を調整する「連携体」を構築することを支援し、内閣府が主催する研修や訓練を通じて「連携体」の体制を強化する。

○ 発災時には、防災ボランティアに対する被災地のニーズや、支援活動に関する情報を共有し、活動内容を調整するため、「全国情報共有会議」を開催する。また、地域ごとに「連携体」が情報共有会議を開催し、被災者ニーズや支援活動の全体像の把握、防災ボランティア活動の調整等を行えるよう支援する。

これらに取り組むことにより、防災ボランティアによる被災者支援が、行政・NPO・ボランティア等の連携・協働により、円滑かつ効率的に行われることを目指します。

内閣府特命担当大臣（防災）
署名 山本順三

特定非営利活動法人
全国災害ボランティア支援団体
ネットワーク　代表
署名 栗田暢之

鹿沼市にボランティアバス出発
横浜災害ボランティアネットワーク会議

11 月 14 日に、横浜災害ボランティアネットワーク会議主催のボランティアバスで、栃木県の鹿沼市で災害ボランティア作業をしてきました。

鹿沼市は台風 19 号による大雨で利根川支流の思川などの河川が氾濫し、床下浸水 239 戸、床上浸水 226 戸、死者も 2 名でています。災害ボランティアセンターは 10 月 13 日に粟野トレーニングセンターに設けられました。

ボラセンでの注意書き

桜木町の健康福祉総合センターに午前 6 時 30 分集合なので 4 時に起床しました。当日は曇りで生暖かい天気で出発時には小雨も降り出しました。参加者は 24 名で横浜各区の災ボラの方、ケアプラザの職員、川崎市から来た方など男女はほぼ同数でした。その他、市ネットの方 2 名、市社協の方 2 名と看護師が 1 名でした。

ボラセンで身支度してバスで作業する粕尾小学校に移動しました。今回の作業は裏山から小学校の校庭に流れ込んだ泥をスコップで除くことです。広い場所は重機で行うので体育館の壁際など重機ができない場所を作業しました。

天気はすっかり晴れて日差しが暑いです。熱中症に注意して 20 分作業 10 分休憩で作業しました。女性も男性と同じにスコップをふるい、一輪車で泥を運びました。体育館は校

すべり板を渡すことでアップした作業効率

庭より4メートルほど高い場所にあり、擁壁沿いに止めたダンプカーに上から泥をスコップで投げ込む作業が大変でしたが、ボラセンから角材とコンパネを持ち込み、上からダンプまですべり板を渡すことで作業効率がアップしました。体育館周りの側溝の泥を取り除き3時に作業を終了しました。バスでボラセンに戻ると、鹿沼そば振興会の方々が名物の鹿沼そばを振舞って下さいました。

ボラセンスタッフの方に少しだけお話を伺うことができました。ボラセンのスタッフは社協職員、ボランティア連絡協議会の会員、一般ボランティアの方合わせて20名程度。NPOなどはいないとのこと。ボランティア連絡協議会は以前からあったとのこと。

ボランティア用の資材は、4年前の水害の時に全国から送られた物があったが、その後熊本、西日本などの災害時に現地社協に送ってしまって不足していたがHPで不足資材を募集したところ現在は足りているとのことでした。ボラセンの運営資金は日本赤十字より300万円もらったそうで、それが届くまでは、予備費として積み立てていた資金を使ったそうです。

災害後1か月たち個人宅の泥だし、片付けのニーズはほぼなくなったようです。ボランティア受付も今後は週末に限定するということでした。鹿沼ボラセンをスタッフの方々に見送られて4時ごろ発ちました。

（山本正史）

篠原小学校地域防災拠点訓練に参加して －１０月２０日－

訓練は

運営委員会は一般参加者集合前に立ち上げ訓練を行い、役員それぞれが手順を確認していました。一般参加者のメニューは要援護者支援のためのDVD鑑賞を始め消防署からの説明、展示・掲示物の見学と併せて備蓄庫にある資機材の展示説明をうけました。

体育館内に設置されたテントを見ての感想。実際には何張りテントが張れるのか。どれだけの人数がここに避難できるのかを想像すると、在宅避難もやむなしと考えさせられます。

災ボラとしての協力内容

災ボラの目標の一つとして「拠点と災ボラの関係作り」が挙げられています。今回運営委員会にお願いして訓練のお手伝いをさせてもらいました。昨年度の災ボラセミナーで学んだパッククッキングを今回は拠点訓練参加者に知ってもらいたいと提案し、体育館の一角に卓上コンロを設置しデモンストレーションを行いました。やはり主婦の関心が集まり、「是非自宅で一度調理してみたい」との声が多く聞かれました。そして災ボラで作成したパッククッキングとローリングストックの案内と共に、農林水産省より取り寄せた「家庭備蓄のすすめ」ちらしも一緒に配布してもらいました。少しずつ、拠点運営委員に災ボラを認知してもらい、共に活動していかれたらと思います。

最後に

「こことも」の人形劇DVDは子供たちにも受け入れられ、どの子も静かに注視していた姿に驚きました。ウシ君達可愛いですよね。まだ見ていない方は必見です。

（小澤美津子）

＊**「こことも」**は障がい者セイフティーネット分科会にある「ここで共に、こころを共に」を合い言葉に活動している人形劇のグループです。

北綱島小学校地域防災拠点訓練

今年度も拠点訓練が行われました。今年度の参加者は児童５９０名合わせて１１６４名でした。

以前の訓練はハード面中心のものでした。ここ数年はソフト面（避難の考え方、防災拠点の開設と運営など）を加えての訓練をしています。拠点訓練は震度５強以上の時開設されるという想定です。

まず１１町会それぞれが円陣を組んでミーティングをしました。(安否確認、情報の共有)その後２班に分かれて校庭では実践訓練（資機材・油圧ジャッキー・水消火器・災害用トイレ・緊急給水栓・下水直結トイレ・簡易担架・高齢者体験など実技）体育館ではソフト面「拠点の開設手順と運営について」テキストを配布しての座学です。今年は「災害時のペット対策」と「ペット登録票」を配布して飼い主の対応もお願いしました。

北綱島小学校地域防災拠点エリアには３４００世帯程度が生活しているとされています。拠点の収容人員は体育館・教室を使っても６００人足らず、最悪廊下などを利用しても１０００人足らずの収容人員です。当然地域の皆さんすべてを受け入れることは不可能です。

担架搬送、子供でもできた

自宅やマンションが使用可能であれば在宅避難をしていただくことが重要です。このことも座学で伝えました。北綱小では１０年ほど前から児童も一緒に訓練に参加しています。

子供も一緒にバケツリレー

今年は６年生が校庭の一角で災害について自分たちで調べたことや学習したことを住民の皆さんに向けて発表していました。多くの住民が足を止め大人が刺激を受けたように思いました。拠点で皆さんに特にお願いしていることは「自分たちの街は自分たちで守る！」「地域全員で生き抜く！」です。

今回訓練の直前に台風が発生して横浜でも避難勧告が出されました。このことを受けて急遽「水害・土砂災害の避難について」のパンフを配布し、北綱島小学校は鶴見川や早淵川氾濫時の洪水浸水想定区域となっており原則として避難場所として開設することはできないことを伝えました。

住民の皆さんが、少しでも災害時のことを「自分事」として受け止めていただけることを願います。　　（拠点運営委員・付岡博子）

編集後記

☆トイレ、キッチンカーが発災直後に配備され、温かい食事が供給されるイタリアの避難所運営が、防災関係者で話題です。日本の避難所も考え直す必要があります。　　（宇田川）

☆訓練はあくまでも訓練ですが、繰り返し行うことで、災害を身近に意識出来ると思います。　　（付岡）

☆ボランティアにＩＴスキルが必須の時代になっています。しかし、アナログ的な手法も大切だと思います。　　（中島）

☆ネット上には防災訓練の参加者を増やした事例がいろいろありますね。　　（室伏）